



# 真の死生観を!!

住職・東海康道

本年は午歳うまざい、どんな年になるのでしょうか。何かとお世話になります。核家族が、宜しくお願い致します。

さて、十数年前より、エンディングとか、最近ではエンディングノートエンディングノートの必要性が説かれています。私は何でも横文字を使うのには抵抗があり、終末期とか臨終りんしゅうという言葉で充分だと思いません。ノートは、「帳」「帳面」でどうでしょうか。

それはさておき、その記述の特徴点や昨今の死生観の変化について考えてみたいと思います。高度成長時代の頃より個性の時代ということが叫ばれ出し、核家族という言葉も耳にするようになりまし。これは確かな事です。都市へ人口が流出した

ことは間違いありません。私はこのことで一点勘違いを致しております。核家族が大幅に増加したと思っていた点です。しかし、これは間違いで、核家族の割合は大正九年が五四・〇%、昭和四十年六二・六%、平成十二年五八・四%とそれほどの変化ではなかったのです。

只、その中身が違うのです。高度成長時代以前は、核家族といつても同じ地域に住んでいたため、交流や助け合いが成立しておりました。高度成長時代以降は一変し、都市部へ人口が流出したため、交流は途絶えがちになり、絶縁状態となり相互に孤独化を招いた核家族となつてしまったのです。

さらに現代社会では、氾濫する

## 第四十九号

発行日 平成二十六年一月一日  
 発行所 神護山・崇福弘濟禪寺  
 (岐阜市長良崇福寺町二)  
[www.cen.aitai.ne.jp/~soufuku](http://www.cen.aitai.ne.jp/~soufuku)  
 印刷者 株式会社 東海康道  
 印刷所 岐阜 東海康道社

状報に翻弄され、見せかけだけの個性化社会となつてしまったと言つても過言ではありません。そして、葬儀無用論等がはびこり、必要以上の簡素化が進んでいるのです。そして、脱宗教化の動きもあります。勿論、一方では現役大学生の宗教の必要性を感じる割合が増加しているという救いもあるのですが……。

この様な様々な原因により、エンディングノート等の作製に



熊谷蓮生坊「東行逆馬図」白隠慧鶴揮筆  
 (原本、京都 龍安寺蔵)

も行き過ぎた面が感じられる様になり、それが実行に移されているのです。今後、私達は次の三点に心掛けるべきではないかと思うのですが……。

- ①個性化というものの、自分の判断が、自己満足や自分勝手に陥っていないか深く考える。
- ②仏教では因縁の大切さを説いているが、家族や地域の中で生きているという関係性を無視していかないか深く考える。
- ③生死の過程や大切さを家族や親族、友人等に伝えていく役割について深く考える。
- ④形式的な葬儀にならない様、僧侶側も施主側も深く考え、残された人々との関係性(因縁)の再構築に繋げる様な工夫をする。

檀信徒の皆様方からも御意見を伺いたいと存じます。因みに卑山としては葬儀の意味を三点御説明させていただきます、その都度、どんな事を次にやるのか説明を加えております。又、お孫さんからの作文や、好きな曲、手作りの作品等があれば、葬儀に取り入れていただく様、お勧めさせていただきます。

【「ピハール」公開講座】

# 福島県の現状を知ってる!?

心理セラピスト 佐藤 瑛気氏

昨年六月二十九日(土)午後二時半より、心理セラピストの佐藤瑛気さんに、福島県の現状について講演していただきましたので概要を御報告いたします。現在は長良西校区に、お嬢さん(長良西小三年)と奥様の三人で移り住んでおられます。

佐藤さんは福島市渡利地区の新興住宅地の御出身です。平成二十三年三月福島第一原発事故後、放射線量が局所的に高い「ホットスポット」が点在する地区だったそうです。

事故後、洗濯物や布団等は室内干ししか出来ず、子供さん達は外で遊ぶことはかなわず、マスクを着けたり線量計をぶら下げての登校を余儀無くされていったそうです。

そんな中、市民団体が高山市で催した福島の子供対象のプログラムに参加し、お嬢さんが伸び伸びと遊ぶ姿を見て、福島から移住しようと決意され、福島へ帰り親御さん達と話し合われたとのことでした。その際に、御両親や親族から、「御前たちは

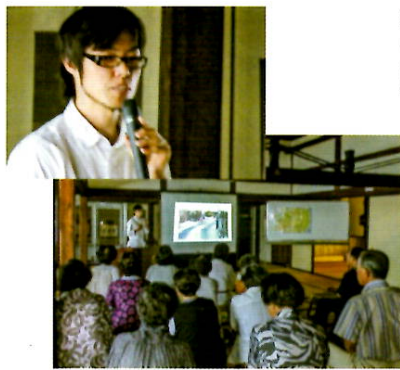
故郷や親を見捨てるつもりか……。」等という言葉に浴びせられたけれども、「ここには子供の健康を守れない!!」と言い残して、縁を頼って長良の地に永住することを決意されたそうです。

故郷は東海地区に比べると十倍近い線量があり、子供たちもちよつとしたことで出血し易いとのことでした。佐藤さんのお嬢さんはそういうこともなく、元気に小学校へ通っているそうです。

事故後は地元メディアで、ほとんど原発事故に関するデータは流されなかったそうです。高山や岐阜で初めて詳細をニュースで知ったとのことでした。地元で、メディアの統制がなされていたことは間違いないと後に確信されたそうです。

要約は右の通りですが、地元メディアの統制というお話しは大変ショックでした。他県でニュースの時間に、地元ではお笑い番組やその他の番組が流さ

れていたそうで、他県の方から被災状況を知らせてもらったり、インターネットで調べるより方法がなかったそうです。現在、日本政府は特定秘密保護法を制定しようとしておりますが、将に悪法で空恐ろしくなります。



もう一点心に残っているのは、子供を安全な所で育てようと思っても、親の介護や、親族・地域等のしがらみ、仕事上の問題点等があつて、福島を出られない方々や、母親・子供のみを移住させ、父親は地元に残らざるを得ないという様なケースが沢山あるということを再認識させられたということです。幸い佐藤瑛気さんは、心理セラピストの仕事ではないけれど、

塾の講師というお仕事が見つかり、奥様も看護師として病院勤務なので、恵まれておられる方だと思えます。

尚、佐藤瑛気さんはグループで「えいきエイド」という会を立ち上げ、福島県の現状や問題点、脱原発を訴えて講演にも出かけておられます。卑山での義捐金は、全額「えいきエイド」にお渡し致しました。

皆様方にも「えいきエイド」へのご支援を御願ひ致します。

ゆうちょ銀行  
〇〇八七〇一―二二八七九五  
(ゆうちょ同士の場合)  
店番〇八九  
当座〇二八七九五  
(他行からの振込み)

**福島の現状知って**

岐阜市に移住、佐藤さん語る 崇福寺で講座

「福島県で被災された方々の現状を知りたい」という思いから、心理セラピストの佐藤瑛気さんが、昨(29)日午後二時半から、崇福寺で「福島の現状知って」と題して講演した。佐藤さんは、福島県渡利地区出身で、平成二十三年三月福島第一原発事故後、放射線量が局所的に高い「ホットスポット」が点在する地区に生まれ、事故後は洗濯物や布団等は室内干ししか出来ず、子供さん達は外で遊ぶことはかなわず、マスクを着けたり線量計をぶら下げての登校を余儀無くされていった。そんな中、市民団体が高山市で催した福島の子供対象のプログラムに参加し、お嬢さんが伸び伸びと遊ぶ姿を見て、福島から移住しようと決意され、福島へ帰り親御さん達と話し合われた。その際に、御両親や親族から、「御前たちは

（岐阜新聞より転載）

お寺からの手紙 33

### 仏女新聞

飯島可琳さん（10才）は、奈良県生駒市の小学4年生で、平成24年から仏女新聞という壁新聞を小学校に張り出していきます。記事もコラム「仏声人語」もひとりで書いているそうです。その上、内容がすばらしいので、奈良の興福寺特集は寺の境内で2千部以上無料で配られているとのこと……。

皆さんも好きなものが見つかるといいですね。



(朝日新聞より転載)

鐘の音が響いているお寺は、花を咲かせ、世にも運を授けてあげ、もしがらすと、お寺を運に運の花を輝けさせてあげて、お寺のなかにも……

(仏女新聞)

## 信 長 祭

### 信長公供養

信長祭り（十月五日〜六日）が開催され、当山も協力をし、無料開放致し、沢山の方々においでただけました。

尚、五日は毎年恒例の信長・信忠公の追悼供養が当山で行なわれました。引き続き納僧が講話をさせていただきます。

数日前に、信長公の側室であり、信長公の長男信忠公の母に当たる吉乃（生駒氏の娘）の末裔生駒家当主よりお電話をいただいたので、吉乃が小牧山城で亡くなり、信長公が稲葉山城（岐阜城）に入城の後、信忠公が崇福寺を吉乃の位牌所に定めたという書状が残っていること等について講演させていただきました。

(岐阜新聞より転載)

## ビバー長良 どうだんつづじコンサート

十一月十九日（火）、朝六時頃にかすかに時雨れていたため、野点が出来るかどうか、少し不安が過りました。

どうだんつづじの時事に、毎年コンサートを開催しているのですが、五月に開山様の五百年と六百年の遠諱があつたため、それに合わせて庭園を一部改修したのを記念して、野点も行なうことになったからです。

しかし、お陰様で杞憂に終わり大変良い天気となりました。午後〇時三十分より野点となり、行列の出来る時間帯もあつたようです。表千家の近藤幸子先生と社中の方々にお世話になりました。

一時三十分より、本堂内に於て、筑前琵琶橘流日本橋会師範宮下旭菖さんが、「阿井の渡」と「都落ち」の弾き語りを披露されました。平成十五年にサンツールを演奏していただいた宮下節雄さんの奥様ということに不思議な御縁を感じました。



(右より2人目近藤幸子先生と社中の皆様)

紅梅と松竹を演説しむ

(岐阜新聞より転載)

最後になりましたが、田中造園会長の田中義正様には野点設営等でお世話になりました。安田清明様にもお手伝いやら御写真等で御協力いただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。



(中日新聞より転載)



**檀家さん・後藤市三郎家**

後藤市三郎家(後藤昇氏)が、景観重要建造物に指定されました。

私も崇福寺の住職をさせていただき、約二十年近くになります。先住職もそうでしたが、古い建物を維持保存していくことは地道な仕事であると思っております。

**崇福寺年間予定表**



(中日新聞より転載)

- ▲元日祝聖(寺のみ) 元日
  - ▲修正会祈祷(寺のみ) 元旦〜3日
  - 年頭受け 元旦〜2日
  - 大般若会 1月15日
  - 防火訓練(北署と合同) 1月下旬
  - 御詠歌新年会 2月初旬
  - 春彼岸会(塔婆供養と法話) 3月
  - 快川国師顕彰会 4月3日
  - 花祭り 4月8日
  - ▲開山忌 5月7日
  - ビハール長良公開講座 5月15日
- ※詳細については一ヶ月前には決まりますのでお尋ねください。
- 平和の鐘 7月9日
  - 棚経回り 7月10日頃
  - 夏休みお経と坐禅の会 7月21日〜30日
  - 山門施餓鬼会 8月1日
  - ▲崇福寺自治会地藏供養・施餓鬼会 8月3日
  - ▲施餓鬼会(真福寺地区のみ) 8月5日

- 棚経回り 8月10日頃
- ※8月13日〜15日を他日に変更していた方が、前もってお知らせください。
- 信長祭 10月4日〜5日
- 10月4日信長公追悼供養引き続き法話
- どうだんつつじコンサート 11月21日
- ※一ヶ月前には、詳細が決定しますのでお問い合わせください。
- 除夜の鐘 大晦日11時45分
- 寺報発行 1月・7月
- 花園会御詠歌練習 不定期
- 責任役員会 随時
- ▲花園会役員執行部会 随時
- ▲花園会役員総会 4月
- 檀信徒のみ可
- 指定者のみ可
- どなたでも可
- ビハール長良学習会(午後1時30分)
  - 1月27日(月) 2月13日(木)
  - 3月13日(木) 4月23日(水)
  - 5月15日(木) 6月13日(金)
- ※公開講座
  - 7月28日(月) 9月12日(金)
  - 10月29日(水) 11月21日(金)
- ※フサート
  - 12月12日(金)
- ※食事会・反省会(12時)
  - 1月22日(水) 2月21日(金)
  - 3月24日(月) 4月30日(水)

- 御詠歌練習(不定期)
  - 入会御希望の方は、詠歌部の笠原香代子さん・井上かほるさん、又は寺の方へお尋ね下さい!!
- 写経(午前10時30分)
  - 5月20日(火) 6月16日(月)
  - 7月17日(木) 9月25日(木)
  - 10月14日(火) 11月14日(金)
  - 12月5日(金)
  - 1月17日(金) 2月7日(金)
  - 3月4日(火) 4月17日(木)
  - 5月26日(月) 6月6日(金)
  - 7月9日(水) 9月8日(月)
  - 10月8日(水) 11月5日(水)
  - 12月16日(火)

**平成二十六年・年忌御案内**

○一	周忌(平成二十五年)
○三	回忌(〃二十四年)
○七	回忌(〃二十年)
○十	七回忌(〃十年)
○十三	三回忌(〃四年)
○二十	三回忌(〃四年)
○二十三	三回忌(〃四年)
○二十七	三回忌(昭和六十三年)
○三十三	三回忌(〃五十七年)
○三十七	七回忌(〃五十三年)
○五十	十回忌(〃四十一年)
○百	回忌(大正四十年)

(数え年なので亡くなった年から数えます。)

**福集後記**

物言えない息詰まる社会にならない様、祈念致しますよう!!